

その九 災害ボランティア 各地で支え合い・助け合い



機動力を生かして

1995年1月17日午前5時46分、震度7の激震が阪神淡路地方を襲いました。この地震の被害は死者6433人、家屋の全壊10万4906棟という大規模なものとなりました。連合は1月19日の中央執行委員会で「対策本部」を設置し、救援活動に取り組みました。被災地には多くのボランティアが駆け付け、後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。私は、当時、ゼンセン同盟本部におりましたが、被害状況を見て何かできることがあるはずと現地に赴きました。大阪から入ると途中までは普通と変わらない町の風景が、西宮市に入ると一変しました。家々が軒並み傾いていました。神戸で最もにぎやかな三宮駅前も大きなビルが傾いてまるで映画のシーンを見ているようでした。連合は救援物資の集約と配布を初期段階から行い、その後救援物資の仕分け、配布、給水、避難所支援、入浴支援など広範な活動を展開しま

した。連合の機動力のある対応は行政関係の物資配布の遅れをカバーするものとなりました。5月末までに連合ボランティアは5万4000人を超え、その体験を通じて参加した本人だけでなく、組合内部に改めてボランティアへの理解が進みました。

2004年10月23日午後5時56分に新潟県中越地方で発生した「**新潟県中越地震**」(震度7)でも連合ボランティアは大きな役割を果たしました。山古志村が全村避難した長岡市内8カ所の避難施設の管理・運営を連合が引き受け、連合本部の支援要請を受けて、11月8日の週から12月中旬から下旬にかけて、順次仮設住宅に移転して避難所が閉鎖されるまで、延べ1654人のボランティアが活動しました。山古志避難所支援は、長期滞在型でいったん引き受けたら穴を空けられない支援であり、責任の持てる組織的対応が求められる活動でした。

東日本大震災では延べ3.5万人

2011年3月11日午後2時46分、連合震度7を記録する地震が発生、さらに16日午前1時25分マグニチュード7.3の本震が発生し、熊本を中心に死者50人という大きな被害をもたらしました。この地震で連合熊本が入居していた建物にも大きな亀裂が入り、事務所が使用不可能になってしまいました。私は、20日に現地入りし、連合熊本にお見舞いに行きましたが、そこでボランティア派遣の必要があると判断し、早速BCの候補地を探しました。熊本県北部の山鹿市で学生が合宿などに使っている施設「恵の里」を選定し、博多駅を集合地点としたボランティア派遣を構成組織、地方連合会に呼び掛けました。5月4日から第1陣29人が熊本入りし、6月30日まで、延べ1615人のボランティアが活動しました。

古周辺)、東和BC(活動場所:釜石、大船渡陸前高田周辺)、宮城では、仙台BC(活動場所:仙台、石巻周辺)、一

関BC(活動場所:気仙沼周

辺)が立ち上がり、3月31日岩手、宮城へ、4月6日福

島へ第1陣が出発しました。

その後、4月には福島県猪苗代町、いわき市にBC設置、

5月には岩手県千厩町、住田町、宮城県美里町にBCを

設置し、9月下旬までに延べ3.5万人のボランティアを

派遣しました。活動は多岐にわたり、津波により被災した個人宅で、屋内(床下、床上)の泥だし、がれき撤去、屋内

からの畳、家具、家財の運び出しと分別、被災した事業場

寺院、病院での泥だし、がれき撤去、市役所での公文書の移設作業などでした。私が

担当した福島では、津波で被災した水産加工会社での発

泡スチロール・魚製品の回収

がありました。腐敗が進み、強烈な臭いとたたかいたながら

の作業でした。

2016年4月14日午後9時26分、熊本県益城町で

第18回中央執行委員会開催中に、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、太平洋沿岸を中心に高い津波が押し寄せました。「**東日本大震災**」の発災です。この大震災は死者1万5895人、行方不明者2539人という未曾有の被害となりました。この中には私たち連合の仲間とその家族も数多く含まれています。大震災の発生を受けて連合は、3月14日に「救援本部」を設置、被害状況の把握に努めるとともに、被災地への物資支援と救援カンパの実施を呼び掛けました。ボランティア派遣については特に被害の大きかった岩手、宮城、福島各県に先遣隊を派遣し当該地方連合会と調整を進めました。私は先遣隊として福島県に赴き連合福島と調整し、連合福島のある労働会館の1フロアをベースキャンプ(以下、BC)として相馬市、南相馬市へ、もう1カ所会津BCから会津若松郡山へのボランティア派遣をすることにしました。岩手、宮城でも派遣の枠組みが固まり、岩手では、宮古BC(活動場所:宮

厚真、安平町で計3回の「れんごう寄席」を開催しました。

現地のニーズに対応

今年10月12日から13日未明にかけて本州に上陸した台風19号では、関東、東北、中部地方などで大きな被害が出ました。被災された方々に改めてお見舞い申し上げます。ここでも連合は、本部、ブロック、各地方連合会がそれぞれ活動してボランティア活動にあたっています。

労働組合が行うボランティアの利点は、自己完結型で一定の人数が定常的に派遣でき、さまざまな現地のニーズに対応できる点にあります。個人ベースのボランティアは休日集中するなどの波ができてしまいますが、労働組合は平日も含めて派遣するので、受け入れる側も作業計画ができます。連合ボランティアには3つの原則と6つの心得があります。3つの原則とは、①被災地・被災者に迷惑をかけない、②現地の指示に従う、③安全確保。6つの心得とは、①自己完結すること、②被災者への気遣いを忘れないこと、③「思い込み」を捨てること、④集団行動のルールを守ること、⑤無理をしないこと、⑥抱え込まないことです。

日本では自然災害は避けられないところがあります。被災しても励まし助け合うことでは人は勇気づけられます。連合ボランティアもその力の源泉の一つです。



熊本地震で被災した連合熊本の事務所にて



東日本大震災でのボランティア活動



阪神・淡路大震災でのボランティア活動